

2022年度 事業報告

1、 総括

○新型コロナウイルス（Covid-19）の感染拡大の影響から、昨年同様、現場でのアート展はすべて中止、インターネットを通じた販売にとどまった。

○24時間テレビチャリティー委員会様より、空気清浄機、CO2センサーの寄贈をうけ、新型コロナウイルス感染防止への環境整備に繋げることができた。

○公益財団法人SOMPO福祉財団様からの自動車購入助成をうけ、新規車両（ハイゼット）を導入することができた。

○ハーブ事業による安定収入

西部浄化センター横の太陽光発電所管理による、大きな定期的収入のおかげで、Covid-19感染拡大の影響が続く中、利用者への安定した給与に繋げることができた。今後も受注先への配慮に感謝し、安定した協力体制を構築していきたい。

○昨年減少した施設利用者数を取り戻すことができず、事業全体の業績改善に結びつかなかった。利用者の安定した施設利用に繋がるよう、また、サポートセンターどリーむの理念が職員に浸透し、法人の発展に繋がるよう、人材育成、魅力ある施設づくりに取り組んでいきたい。

2、 組織の状況

① 2022年度会員数

正会員 40 賛助会員 0 計 40

② 理事数・理事会開催数

理事 7人 監事 2人 開催数 2回

3、 事業実施の成果

A) 就労継続支援B型“わんぱく大使館”事業

【2018年4月1日（指定）】 現在 23名（定員20名）

障がいのある人の個性や創造性に着目した新たな自立支援の道として平成24年4月1日からわんぱく大使館（B型事業所）をスタートしてきた。

現在定員20名のところ23名の利用者が施設利用している。

施設利用者へのきめ細やかなサービス提供、継続した施設利用に繋がるよう、職員の人材育成を中心に今後も努めていきたい。

また、新型コロナウイルス（COVID-19）については、感染症法の位置づけが変更（改正2023年5月8日から）、2類から5類に引き下げられるため、業務継続計画書（BCP）を用いた感染防止対策に努めていきたい。

利用者数の状況

定員20名

月度	(2022年4月～2023年3月)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	21	22	22	21	22	22	22	22	22	21	21	22
月平均利用	20	21	21	20	20	21	20	21	22	21	21	23
充足率(%)	100	105	105	100	100	105	100	105	110	105	105	115

就労支援事業収入と平均工賃額

月度	(2022年4月～2023年3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
就労支援事業 収入(千円)	378	353	286	469	304	353	776	295	335	421	337	327
平均工賃(千円)	20	19	21	20	20	19	19	20	20	20	21	20

B) アート展の開催

2022年度のアート展は、すべてインターネットでの展示販売で実施した。

C) 計画相談支援および障がい児相談支援事業

【2016年9月1日(指定)】

現在 9名

新規利用者の確保はもちろん、相談支援専門員の人財確保、またそれに準ずるための人財育成に努めていきたい。

きめ細かいサービス提供に繋がるよう、職員の質の向上に力を注いでいきたい。

利用者数の状況

月度	(2022年4月～2023年3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	6	6	5	5	5	8	8	8	8	8	9	9
サービス提供実施回数	5	5	5	4	4	7	7	7	8	7	7	8

D) 共同生活支援“わんぱくハウス”事業

【2018年4月1日（指定）】

現在 2名（定員6名）

障がいがある人たちが安心して生活できる場として、2018年4月1日からスタート
2023年3月31日更新。現在2名が利用。利用者の居場所作りに繋がるよう業務継続計画
書（BCP）を使用しながら、事業の継続に努めていきたい。あわせて職員の資質向上、
人財育成にも取り組んでいきたい。

利用者数の状況

定員6名

月度	(2022年4月～2023年3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
月平均利用	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
充足率（％）	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33

E) わんぱく学園事業

共生の町づくりの普及、そして、障がい児者の情報 県内の障がい者グループとの情
報交換や相談の充実の場として1988年6月26日に開園したわんぱく学園も30数年になっ
た。

感染症法の改正で新型コロナウイルスの位置づけは2類から5類に下がるが、引き続き
感染拡大に繋がらないよう、活動を実施。思いの輪を拡げていきたい。

4、事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施事業の日時、場所 従事者の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (単位：千円)
本部	本部事業	通年	18名	2,283
就労継続支援B 型事業所 わんぱく大使館	アート展開催 WEB	一畑デパートアートフェア (新型コロナウイルス感染 拡大のため中止) 第12回国際チャレンジド アートエキスポ R4年3月27日～R5年4月27日 (WEBでの開催) 9名	絵画、陶芸製作者 23名 23名	113
	障がい者の就労 支援	毎週月曜日～金曜日 9時～16時 わんぱく大使館 5名	わんぱく大使館 利用者 23名	38,157
計画相談支援	障がい者の計画 相談支援	毎週月曜日～金曜日 10時～16時 相談支援事業所わんぱく 2名	相談支援事業所 わんぱく 利用者 10名	856
共同生活支援 事業	障がい者の共同 生活支援	年末年始以外 わんぱくハウス 2名	わんぱくハウス 利用者 2名	7,642
音楽事業	障がい者の音楽 支援			0
わんぱく学園 事業	障がい者、健常 者一緒にの戸外活 動	毎週日曜日午前中、アト リエ「おちらと」 2名	障がい者 延べ 46名	309

(2) その他の事業 実施していない。